

令和6年度の取組事例

流域プロジェクトの対策メニューと令和6年度の取組項目

事項	☆ : 実施予定=R7以降実施する予定の取組 ★ : 新規実施=R6に新たに実施した取組 ○ : 継続実施=R5以前から実施しており、今後も継続して実施していく取組(例:防災教育、水防訓練、広報活動など) ◎ : 拡大実施=R5以前から実施しており、今後も範囲を拡大して実施していく取組(例:まるごとまちごとハザードマップなど) △ : 協力=他機関が主体となる取組を補助・協力する取組 ㄐ : 実施完了=実施が完了した取組 ー : 対象外=実施対象外の取組 ◆ : 脱却=実施予定だったが、今後実施する見込みがなくなった取組 [黄緑色] : 令和6年度に実施、追加・更新した項目	相当する7評価指標	取組機関																																		
			三重・京都圏域ブロック					奈良圏域ブロック				府県			水資源機構	森林研究・整備機構	国							鉄道会社			日本防災士会										
			津市	名張市	伊賀市	笠置町	南山城村	宇陀市	山添村	曾爾村	御杖村	三重県	京都府	奈良県	理所	木津川ダム総合管	近畿北陸整備局	森林整備センター	津地方気象台	奈良地方気象台	事務所	淀川ダム統合管理	務所	木津川上流河川事務所	所	紀伊山系砂防事務所	興部	近畿農政局農村振興部	東海農政局農村振興部	式会社	西日本旅客鉄道株	会社	近畿日本鉄道株式	伊賀鉄道株式	三重県支部	京都府支部	奈良県防災士会
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策																																					
洪水氾濫対策																																					
・河川改修	築堤・護岸工,河道掘削,河道拡幅,バイパス水路整備,堤防補強(堤防天端の保護、裏法尻の補強),遊水地整備,橋梁架替,堰改築,災害復旧(河川)	1	-	-	-	-	-	-	☆/-	-	-	○/-	-	○/-	-	-	-	-	-	-	○/-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・河川の適正な維持管理	樹木伐採,河道の維持掘削、浚渫,許可工作物の点検、巡視の実施及び占有者への適正な運用の指導,橋梁点検に基づく維持管理,土砂堆積状況等の把握	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-/○	○/-	-/○	-	-	-	-	-	-	○/-	-	-	-	-	-	-	-/○	-/○	-/○	-	-	-	-	-	-	
・河川管理施設の長寿命化	排水ポンプオーバーホール等	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	☆	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
・土砂のストックヤード整備	河川沿いストックヤードの整備	1	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・防災拠点の整備、重要施設の移転	防災拠点の整備、重要施設の移転の検討,防災拠点の整備、重要施設の移転	1	-	-	-	-	-	☆	☆	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・浚渫工事における河床堆積土砂の受け入れ	浚渫土砂の受け入れ先確保	1	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
内水氾濫対策																																					
・下水道(雨水)管渠の整備※	雨水管理総合計画に基づく計画的な下水道施設の整備,既存ストックの活用・機能保全強化	3	-	-	-	-	-	○	☆	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・下水道等の排水施設の整備、雨水ポンプ増強※	排水ポンプ施設の設置,排水路の整備,可動式排水ポンプの導入	3	-	-	-	-	-	○	☆	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・排水施設の耐水化※	施設の耐水化計画の策定,排水施設の耐水化	3	-	☆/-	-	-	-	☆	☆	☆	☆/○	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・下水道吐口の耐震化	下水道吐口の耐震化計画の策定,下水道吐口の耐震化の整備	3	-	-	-	-	-	☆	☆	☆	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・雨水公共下水道事業の整備	公共下水道事業耐水化の整備	3	-	-	-	-	-	○	☆	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・下水道の機能高度化	下水道の機能高度化	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
土砂災害対策																																					
・砂防事業	砂防堰堤,山腹工,床固工	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○/-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・避難路、避難場所の安全対策の強化	急傾斜地崩壊対策施設の整備,地すべり防止施設の整備	4	-	-	-	-	-	☆	☆	-	☆	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・治山事業	谷止工,山腹工,床固工,流木・土砂の流出抑制対策,災害復旧(治山)	4	-	-	-	○/-	-	-	-	-	-	○/-	ㄐ/-	○	-	-	-	-	-	-	-	-/○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流水の貯留機能の拡大																																					
・ダム建設	川上ダム建設	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ㄐ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・既設ダムの機能維持	既設ダムの堆砂除去	3	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・貯留施設の低水管理や事前放流	ダムの低水管理や事前放流	3	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・利水ダムにおける事前放流の実施、体制構築	事前放流の操作規則・実施体制構築,ダムの事前放流の実施,予測精度の向上,放流施設の改良	3	-	-	-	☆/-	-	△	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・効果的な事前放流の実施	予測精度の向上,放流施設の改良	3	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流域の雨水貯留機能の向上																																					
・雨水貯留施設の整備	雨水貯留施設の整備,各戸貯留の促進	3	-	-	-	-	-	-	☆	-	☆/-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・田んぼダムの整備	田んぼダムに関する調査,農業関係者対象の田んぼダム説明会の開催,田んぼダムの整備	2	-	○	★	-	-	-	☆	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・流出抑制施設の整備	透水性舗装(車道・歩道・駐車場など)の採用,雨水浸透ますの整備,公園緑地の整備	3	-	-	-	-	-	-	☆	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※青字：今回追加した項目

流域プロジェクトの対策メニューと令和6年度の取組項目

事項	☆ : 実施予定=R7以降実施する予定の取組 ★ : 新規実施=R6に新たに実施した取組 ○ : 継続実施=R5以前から実施しており、今後も継続して実施していく取組 (例: 防災教育、水防訓練、広報活動など) ◎ : 拡大実施=R5以前から実施しており、今後も範囲を拡大して実施していく取組 (例: まるごとまちごとハザードマップなど) △ : 協力=他機関が主体となる取組を補助・協力する取組 ㄐ : 実施完了=実施が完了した取組 - : 対象外=実施対象外の取組 ◆ : 脱却=実施予定だったが、今後実施する見込みがなくなった取組 [] : 令和6年度に実施、追加・更新した項目	相当する7評価指標	取組機関																																			
			三重・京都圏域ブロック					奈良圏域ブロック				府県			水資源機構	森林研究・整備機構	国							鉄道会社			日本防災士会											
			津市	名張市	伊賀市	笠置町	南山城村	宇陀市	山添村	曾爾村	御杖村	三重県	京都府	奈良県	理所	木津川ダム総合管	近畿北陸整備局	森林整備センター	津地方気象台	奈良地方気象台	事務所	淀川ダム統合管理	務所	木津川上流河川事	所	紀伊山系砂防事務	興部	近畿農政局農村振	東海農政局農村振	興部	式会社	西日本旅客鉄道株	会社	近畿日本鉄道株式	伊賀鉄道株式会社	三重県支部	京都府支部	奈良県防災士会
・開発行為に伴う調整池の設置	調整池整備の検討,調整池の設置,都市計画法及び森林法の開発許可に伴う調整池設置の指導,既存調整池設置の維持管理	3	-	-	-	-	-	☆/○/-	☆	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・ため池の治水利用	ため池の治水活用検討,ため池の改修,ため池の事前放流,ため池の浚渫	2	-	○	-	-	-	-	☆	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・農業用排水路の治水利用	農業用排水路の治水活用検討,農業用排水路の改修	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・森林の整備・保全	間伐等の森林整備の検討,間伐等の森林整備	4	-	○	-	-/○	-	-	-	★	☆	○	-/○	△	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
被害対象を減少させるための対策																																						
水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫																																						
・浸水被害軽減地区、災害危険区域の検討	浸水被害軽減地区の指定	5	-	-	-	☆	-	☆	-	☆	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
・土砂災害警戒区域等の指定	土砂災害警戒区域等の指定	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
・土地利用規制・誘導（災害危険区域の指定等）	災害危険区域の指定	5	-	-	-	☆	-	-	-	☆	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
・災害危険区域や建築制限の指定を受けた区域の整備（立地適正化計画策定事業、土地区画整理事業等）	立地適正化計画の策定	5	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
・土地区画整備事業（宅地嵩上げ）	宅地嵩上げの検討・実施	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
・二線堤、輪中堤整備・保全	二線堤、輪中堤の整備・保全	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
・道路盛土を活用した緊急避難場所整備	道路盛土を活用した緊急避難場所整備	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
・円滑かつ迅速な避難に資する施設のハード整備	円滑かつ迅速な避難に資する施設のハード整備	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
・下水道計画、都市計画変更	下水道計画、都市計画変更に向けた検討・調整	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
・特定都市河川の指定	流域水害対策計画策定	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策																																						
土地の水災害リスク情報の充実																																						
・地形改変等のあった箇所について基礎調査を実施	基礎調査の実施	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
・水害リスク情報の空白域の解消	水害リスク情報の空白域の解消	6	-	-	-	-	-	○	-	-	-	ㄐ	○	ㄐ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
・水害リスクの周知	SNSを活用した水位等の水害リスクの周知,水害リスクマップの作成・周知,内外水リスクマップの作成・周知	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-/☆	-	-	-	-	-	-	○/-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・ハザードマップの改良、周知、活用	洪水ハザードマップの改良、周知,土砂災害ハザードマップの改良、周知,ハザードマップの防災教育への活用	6	-	ㄐ/-	○	○	☆	○	○	○/-	○/-	-	-	△/-	-	-	-	-	-	-	-/○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・広域避難計画等を反映した洪水ハザードマップの作成・周知	広域避難計画等を反映した洪水ハザードマップの作成、周知	6	-	-	-	○	☆	○	☆	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
・内水ハザードマップの策定・周知	内水ハザードマップの作成、周知	6	-	-	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
・ため池ハザードマップの整備	ため池ハザードマップの整備	6	-	-	★	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
・まるごとまちごとハザードマップの整備	まるごとまちごとハザードマップの検討,まるごとまちごとハザードマップの整備	6	-	◆	-	★/◎	☆	☆/-	-	-	-	-	-	-/○	△	-	-	-	-	-	ㄐ/○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
・水位計・簡易カメラ・浸水センサー等の拡充・間質周知	設備（水位計・簡易カメラ・浸水センサー等）の設置検討,設備（水位計・簡易カメラ・浸水センサー等）の設置、更新	6	-	-	-	○	-	☆/-	☆	-/○	-	-/○	-/○	○	○	-	-	-	-	-	ㄐ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※青字：今回追加した項目

目次

伊賀市	3
名張市	5
笠置町	7
山添村	9
宇陀市	12
御杖村	14
三重県	16
京都府	26
奈良県	33
水資源機構関西支社 木津川ダム総合管理所	36

津地方気象台、 奈良地方気象台	42
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター近畿北陸整備局	44
国土交通省 近畿地方整備局 木津川上流河川事務所	46
国土交通省 近畿地方整備局 紀伊山系砂防事務所	59
特定非営利活動法人 奈良県防災士会	62

R6取組事例 (構成機関名)

R6取組事例 (伊賀市)

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:伊賀市】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

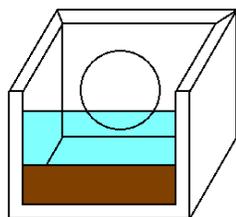
〔 田んぼダムの整備 〕

【主な整備内容】

水田の落水口に流出量を抑制するための排水調整板を設置することで、雨水貯留能力を人為的に高め、大雨時に水路や河川の水位の急上昇を抑えることで、下流域の湛水被害リスクの低減を図る。令和6年度から3組織が実施。

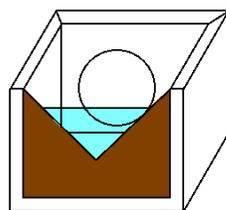
通常の落水口

そのまま河川に流れる。



排水調整板を設置

そのまま河川に流れる。



取組状況の様子



実施主体
担当部署

農村整備課

R6年度
田んぼダム進捗状況
11ha実施見込

取組概要

排水調整板の設置を行う。

取組内容の工夫点・課題・留意点

課題として排水調整板を設置し雨水貯留量が増えることにより、畦畔崩落の被害の恐れがあるため、実施してくれる組織が少なく田んぼダムの効果が高まらない。

取組による効果

大雨時に水路や河川の水位の急上昇を抑えることで、下流域の湛水被害リスクの低減が図れる。

活用可能な制度等

多面的機能支払交付金事業の加算措置「水田の雨水貯留機能の強化（田んぼダム）を推進活動」

1期目	10a当：400円の加算
2期目以降	10a当：300円の加算

R6取組事例 (名張市)

被害対象を減少させるための対策

〔 災害危険区域や建築制限の指定を受けた区域の整備
立地適正化計画の策定 〕

『名張市立地適正化計画策定検討委員会で防災指針を含む立地適正化計画について検討を実施』

【主な整備内容】 名張市立地適正化計画(素案)第6章防災指針 抜粋

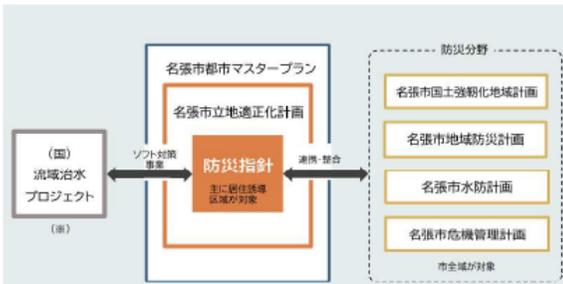
1. 防災指針とは

防災指針とは、頻発・激甚化する自然災害に対応するため、2020(令和2)年6月の都市再生特別措置法の改正により定められた「居住誘導区域にあっては住宅の、都市機能誘導区域にあっては誘導施設の立地及び立地の誘導を図るための都市の防災に関する機能の確保に関する指針(都市再生特別措置法第81条第2項第5号)」のことで、本計画では、誘導区域を設定して居住や都市機能の誘導を進めていこうとしていますが、誘導を図るためには都市防災の視点を併せ持ち、コンパクトで安全なまちづくりを推進していく必要があります。そのため、居住誘導区域等(都市機能誘導区域を含みます。以下同じです。)から災害リスクの高い地域を原則除外するとともに、当該区域に残存する災害リスクに対しては防災指針を定め、計画的かつ着実に必要な防災・減災対策に取り組むこととします。

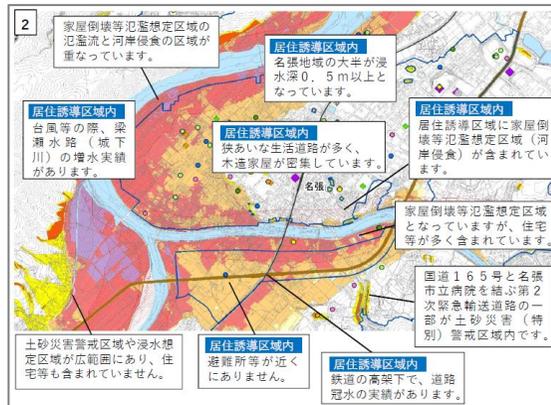
今後も激化が見込まれる水災害(洪水災害及び土砂災害)を中心に、主に居住誘導区域内及びその周辺区域の災害リスク分析を通じて課題を整理し、リスクを回避・低減するための取組方針や防災まちづくりの目標、取り組んでいくべき必要な防災・減災対策を示します。

〔 防災関連計画等との位置付け 〕

本指針は、市の各防災関連計画との連携・整合を図ります。また、国が進めている流域治水プロジェクトのソフト対策事業にも位置付けられています。



※流域治水プロジェクトとは、河川管理者が主体となって行う治水対策に加え、河川流域(氾濫域も含む)全体のあつちのち関係者が共同して流域全体の水害を軽減させるための、ハード・ソフト一体となった事前防災対策の取組のことです。



○河川改修(名張かわまちづくり一体型浸水対策事業) (実施主体) 国、市など

木津川上流域ダム群による洪水調節と合わせた河道改修(名張引堤及び河道掘削)を、地域と連携した「かわまちづくり」の取組とともに推進します(『淀川水系河川整備計画』)。また、洪水被害を軽減するため個別避難計画(※)作成等の取組も合わせて、ハード・ソフトが一体となった事前防災対策(淀川水系流域治水プロジェクト)を地域や関係機関と連携して進めます。

※個別避難計画とは、災害時の避難に特に支援が必要な方(避難行動要支援者)一人一人について、災害が発生した際にスムーズに避難支援を行えるよう、どこに避難するか、誰が避難を支援するか、どのような配慮が必要になるかなどをあらかじめ決めておくことです。

【参考】名張川河川改修の整備効果(浸水深50cm以上)



凡例: 高頻度(1/10) 中高頻度(1/30) 中頻度(1/50) 中低頻度(1/100) 低頻度(1/150) 想定最大規模
出典: 国土交通省近畿地方整備局木津川上流河川事務所リスクマップより一部加工

実施主体
担当部署

名張市都市整備部
都市計画室

R6年度
進捗状況:○

取組概要

- ・名張市立地適正化計画策定検討委員会で
の検討
- ・地域説明会・パブリックコメントの実施
- ・議会、都市計画審議会での最終報告
- ・令和6年7月31日策定・公表

取組内容の工夫点・課題・留意点

- ・防災指針では各種ハザード情報と建築物等の都市の情報を重ね合わせた資料を作成し、都市の災害リスクの見える化を行った。

取組による効果

- ・策定検討委員会では、特に防災面において外部の専門委員による意見を反映した案を作成することができた。
- ・各所での報告・市民への周知を図ることができた。

活用可能な制度等

- ・都市構造再編集中支援事業 等

R6取組事例 (笠置町)

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:笠置町】

課題対応:R6

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 町内の自主防災組織と町の共催による
防災訓練の実施 〕



救出・救護訓練



初期消火訓練



防災組織醸成訓練

実施主体
担当部署

笠置町総務財政課

R6年度
進捗状況:○

取組概要

自主防災組織の防災力向上と防災関係機関との連携醸成を主な目的として、町との共催による防災訓練を実施。

- ・初期消火訓練
- ・救出・救護訓練
- ・防災組織醸成訓練 など

取組内容の工夫点・課題・留意点

消防機関や郵便局の協力を得て、実際に防災資機材を駆使した火災や土砂災害等を想定した訓練をおこなうことで、知識の醸成、技術力向上、関係機関との連携強化を図る。

取組による効果

地域全体の防災意識向上に繋がる。

活用可能な制度等

特になし。

R6取組事例 (山添村)

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:山添村】

課題対応:R6

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 関係機関や消防署、山添村消防団、日本赤十字社と
 共同で地区防災訓練を実施 〕



実施主体
 担当部署

山添村、山添消防署、山添村消防団、日本赤十字奉仕団山添分会

R6年度
 進捗状況:○

取組概要

大雨や地震を想定し、避難所までの避難訓練を実施。また、避難所ではAED講習や消火器訓練、日本赤十字奉仕団による炊き出し訓練を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

地域を分けて年1回開催。消防署や赤十字社との協力を得て、訓練を行った。

取組による効果

地域住民による防災意識の向上や関心をつかむ訓練となった。

活用可能な制度等

特になし。

R6取組事例 (宇陀市)

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 平時からの住民への周知・教育・訓練に関する事項(住民参加型の避難訓練)
指定緊急避難場所「ぬく森の郷」を使った避難所開設・運営訓練の実施 〕



居住スペース設定



簡易トイレ作成



段ボールベツ組み立て



パーティションテツの設営

実施主体
担当部署

宇陀市危機管理課

R6年度
進捗状況:○

取組概要

災害発生時の避難所開設を想定して、「避難所の受付と避難誘導訓練」「避難者エリア設定と資器材取り扱い訓練」を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

避難が長期化した場合、避難所の運営には市民の協力が必要であるため、計画的に訓練を実施する。

取組による効果

避難所運営に係る知識の一部を知っていたたき、集会所や公民館のような自治会レベルでの自主避難所開設に役立てる。

活用可能な制度等

—

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

「平時からの住民への周知・教育・訓練に関する事項(住民一人一人のマイタイムライン、マイ防災マップの作成促進)」「ブルーシート(災害への備え・避難計画)」の作成

災害への備え (避難計画)

表面

表面

災害への備え (避難計画) 2024年10月1日作成
※この計画は、災害に備えて事前準備と避難行動を個人が作成します。作成後は家族から目付確認に併せてください。

氏名	電話番号
ウダ タロウ	0745-82-0000
宇陀 太郎	080-XXXXX-XXXX

住所	生年月日	性別	年齢
宇陀市生年〇〇	1964年 1月 1日	男	60

1. 自宅周辺の災害リスクの確認
(1) 洪水浸水想定区域 口はい / いいえ (2) 土砂災害(特殊)警戒区域 口はい / いいえ
2. 避難される場所のリスクの確認
(1) 自宅の耐震性 口あり / なし (2) 自宅周辺の危険物 口つよい / よわい
3. 避難のタイミング
(1) 避難スイッチ1 テレビ等で自宅周辺の避難情報(高齢者等避難開始(警戒レベル3))が流れた。
(2) 避難スイッチ2 地域の自主防災会から立ち回り避難の指示が来た。
(3) 避難スイッチ3 自宅周辺の斜面から土の溜ったような臭いがする。

大災害リスクの避難ハザードマップや水害や土砂災害の危険を認識する。また、災害への自身の状況や自宅周辺の危険の把握を行う。

水害危険度が早く、危ない場合は避難場所まであれば災害避難もある。なお、安全でかつ1分以内の上り下りをして避難場所へ入り下る。

水害時のトイレ、風呂は、自分たちが避難を待たずして、あらかじめ決めて避難所で共有する。

水このスイッチに危険な状態が来たら、あらかじめ決めて避難場所へ入り下る。

氏名	住所	連絡先	性別
宇陀 太郎	宇陀市〇〇	090-XXXX-XXXX	男
宇陀 一子	宇陀市生年〇〇	0745-82-0000	女

緊急連絡先は、できる限りすぐ連絡が取りやすい連絡先を記入する。連絡が取りやすい方から記入する。

氏名	住所	連絡先	性別
宇陀 太郎	宇陀市生年〇〇	080-XXXX-XXXX	男
宇陀 一子	宇陀市生年〇〇	0745-82-0000	女

避難時に声などをかけて一緒に避難を決めている。

指定緊急避難場所	指定避難場所	指定避難場所
〇〇公民館	〇〇公民館	〇〇公民館

警戒や避難、地震(自警、自防、自衛)の対応が出来る。避難行動要支援者や高齢者の避難場所を記入する。

避難予定者	避難場所
宇陀 太郎(男)	〇〇公民館
宇陀 一子(女)	〇〇公民館

警戒や避難、地震(自警、自防、自衛)の対応が出来る。避難行動要支援者や高齢者の避難場所を記入する。

避難計画(避難経路)	QRコード
------------	-------

自宅から避難場所までの避難経路を事前に確認し、ブルーシートやブルーシートなどを作成し、災害時の避難行動で活用する。

非常持出品/備蓄品 (2024年10月1日作成)

1. 非常持出品
 - 非常食
 - 飲料水
 - 携帯ラジオ(予備の電池)
 - 携帯充電器、スマートフォンと充電器
 - 懐中電灯(予備の電池、電球)
 - ヘルメット
 - ナイフ、包切り、雑貨
 - ティッシュ(ウェットタイプを含む)
 - ビニール袋
 - 口上履・下履
 - マスク
 - アルミ鍋
 - 救急箱
 - LEDランタン(予備の電池)
 - タオル
 - 軍手、手袋
 - ライター、マッチ、ろうそく

- その他必要なもの
- コップ、スプーン
 - ラップとアルミホイル

2. 備蓄品
 - 食品(乾パン、缶詰、レトルト食品、ドライブーズ等加熱せず食べられる物)
 - 飲料水(一人当たり1日3リットル / 備蓄量 42リットル)
 - 簡易トイレ
 - LEDランタン(予備の電池)、ろうそく
 - マスク
 - 口体計
 - アルコール消毒
 - 乾料(卓上コンロ、調理器具、予備ガスボンベなど)
 - 洗剤(食器洗剤、台所用洗剤、石鹸、タオル、ドライシャンプーなど)
 - 簡易家具(椅子、机、テーブル)
 - 口拭きシート、新聞紙など
 - 予備の服類、予備の靴類など
 - 毛布、タオルケット、寝袋など
 - 口拭き(季節に合わせて入れ替える)
 - 口拭き、やかん
 - ラップ、アルミホイル
 - 調理器具(鍋、ボール、スプーン、カッターなど)
 - 文具用品(筆記用具、ノート、フェルトペンなど)
 - ロウソク

- その他必要なもの
- レインウェア上3組
 - 土のう袋 30枚



自分自身や家族が避難所や避難生活で必要な物資を準備しておくこと。

自宅周辺指定の非常持出品/備蓄品の状況を確認する。

実施主体
担当部署

宇陀市危機管理課

R6年度
進捗状況:☆

取組概要

全市民作成を目指し、自主防災組織や連自治会等の防災講話で、当該地域のハザードマップを拡大詳細にして浸水害や土砂災害の危険を周知し、必要な備えを伝え、それぞれの避難計画を作成する。また、自宅に持ち帰り、家族と話し合っ、さらに詳細な避難計画を家族単位で話し合っていた。

取組内容の工夫点・課題・留意点

64歳以下の市民向けに「ブルーシート」と称して、避難行動要支援者個別避難計画に合わせてマイタイムライン(個別避難計画)を作成いただく。将来的に高齢者などの個別避難計画に移行でき、自分だけでなく、家族も巻き込んだ防災意識の高揚につながる。

取組内容の工夫点・課題・留意点

高齢者等の避難行動要支援者に関する個別避難計画作成が難航する中、若い世代からマイタイムライン(個別避難計画)を作成いただくことで、将来的に高齢者などの個別避難計画に移行できる。また、自分だけでなく、家族も巻き込んだ防災意識の高揚につながる。

活用可能な制度等

R6取組事例 (御杖村)

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:御杖村】

課題対応:R

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 住民参加型の避難訓練の実施 〕

訓練の様子



実施主体
担当部署

御杖村 総務課

R6年度
進捗状況:○

取組概要

地震による建物の倒壊、土砂災害、水害を想定し、最寄りの指定避難所まで避難を行いました。また、消防署隊員を講師とした防災講義・煙ハウス体験・消火器訓練を実施しました。

取組内容の工夫点・課題・留意点

避難訓練実施一ヶ月前に自治会役員を対象に避難訓練説明会を行い、多くの方の訓練参加の周知を依頼しました。

取組による効果

住民一人一人の防災意識の向上

活用可能な制度等

—

R6取組事例 (三重県)

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:三重県】

課題対応: R1-1

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河川改修

① 築堤・護岸工 ② 河道掘削 ③ 河道拡幅

『木津川(指定区間)大規模特定河川事業』

【主な整備内容】



令和6年度の実施内容

- 築堤護岸工
- 樋門工

木津川大規模特定河川事業



実施主体
担当部署

三重県県土整備部
河川課
伊賀建設事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

木津川(指定区間)沿川における浸水被害の軽減を図るため、河道拡幅、河道掘削等により流下能力の向上を図る。

取組内容の工夫点・課題・留意点

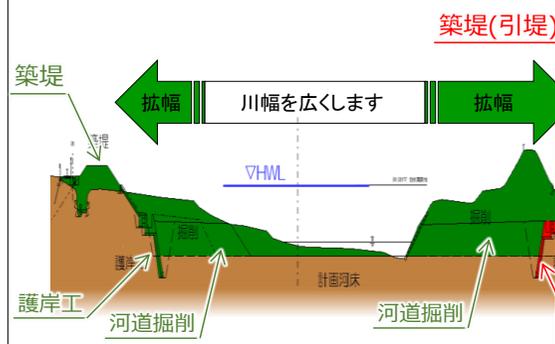
井堰等、既存の横断構造物の改築が必要となる。

取組による効果

上野遊水地事業及び川上ダム整備事業と上下流一体となった整備により、流域全体の治水安全度の向上と、流域住民の安全安心を確保する。

活用可能な制度等

標準断面図



■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:三重県】

課題対応: R1-2

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 〔 河川の適正な維持管理
 ① 河道の維持掘削、浚渫
 『河道の堆積土砂撤去事業』 〕

【主な整備内容】

令和6年度の実施内容

○ 堆積土砂撤去

一級河川木津川他28川

(赤川、小山川、滝川、山の田川、後黒見川、河合川、丸柱川、鞆田川、野田川、比自岐川、御代川、矢田川、青山川、柘植川、岩瀬川、前深瀬川、矢谷川、大谷川、宮谷川、服部川、平田川、愛田川、倉部川、平野川、折戸川、小波田川、久米川、砂川)



実施主体 担当部署	三重県県土整備部 河川課 伊賀建設事務所	R6年度 進捗状況:○
--------------	----------------------------	----------------

取組概要

河道内に経年的に堆積した土砂により、低下している流下能力を回復するため、河道の堆積土砂撤去を実施する。

取組内容の工夫点・課題・留意点

—

取組による効果

河道の堆積土砂を撤去することにより河川の流下能力を回復し、流域内の治水安全度が向上する。

活用可能な制度等

—

施工前



施工後



一級河川比自岐川

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・砂防事業
- 砂防堰堤の整備

【主な整備内容】

石谷の1県単通常砂防事業(伊賀市中村地内)



施工状況(R6.12月時点)



土砂災害防止法施行令第二条の基準に該当する区域	
土砂災害防止法施行令第三条の基準に該当する区域	
それ以外の区域	

実施主体
担当部署

三重県県土整備部
防災砂防課
伊賀建設事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

土石流による土砂災害から下流部に存在する人家、耕地、公共施設等を守ることを主たる目的として、砂防堰堤、床固等の砂防設備の整備を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

水災害の激甚化や発生頻度の増加などの事象を想定し、土石流対策を進めていく。

取組による効果

砂防堰堤等を整備することにより、人家、耕地及び道路に対する土砂災害の被害を軽減させる。

活用可能な制度等

—

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・避難路、避難場所の安全対策の強化
- 急傾斜地崩壊対策施設の整備

【主な整備内容】

○奥馬野地区急傾斜地崩壊対策事業(伊賀市奥馬野地内)



保全対象: 避難所(ライトピアおおやまだ)

実施主体
担当部署

三重県県土整備部
防災砂防課
伊賀建設事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

急傾斜地崩壊危険区域内の自然がけに対し、擁壁工、排水工及び法面工等の急傾斜地崩壊防止施設の整備を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

避難所や要配慮者利用施設の安全確保を優先して実施する。

取組による効果

擁壁工等を整備することにより、自力避難が困難な方々に対する土砂災害の被害を軽減させる。

活用可能な制度等

—

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 〔 ・森林の整備・保全
間伐等の森林整備 〕

【主な整備内容】

○保安林総合改良事業



【施工前】



【施工後】

実施主体
担当部署

三重県農林水産部
治山林道課
伊賀農林事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

・手入れ不足等により過密状態となった荒廃森林において、森林整備を実施することで、山林の機能を回復し、下方人家等の保全を図る。

取組内容の工夫点・課題・留意点

・間伐木を等高線上に並べることで、降雨等により土壌の表目流出を抑制している。

取組による効果

・森林整備を実施することで樹木の生長や下層植生の繁茂を促し、降雨等に伴う土壌流出を抑制する。

活用可能な制度等

—

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:三重県】

課題対応: R9-5,10

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・要配慮者利用施設における避難計画の策定及び避難訓練の促進
対象施設への避難計画作成支援説明会・講習会の開催
- ・市町担当者向けに避難確保計画の意見交換会等を実施

施設管理者への説明



市町担当者への説明・意見交換



実施主体
担当部署

三重県県土整備部
施設災害対策課
防災砂防課

R6年度
進捗状況:○

取組概要

防災部局が社会福祉施設の管理者を対象に開催している説明会に参加し、水防法、土砂災害防止法に基づく避難確保計画及び訓練の重要性等を説明。また、市町担当者に対しても避難確保計画の説明を行うとともに、意見交換会を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

避難確保計画の作成や訓練の実施が進まない場合は、その要因に応じた助言等を実施していく。

取組による効果

施設管理者や市町担当者に避難確保計画の重要性を理解していただき、計画作成及び訓練実施の進捗を図る。

活用可能な制度等

—

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・土砂災害警戒情報の発表
- ・土砂災害情報提供システムの更新、運用
- ・土砂災害警戒区域等の指定

土砂災害警戒情報の発表



土砂災害情報提供システムの更新、運用



システム周知ポスター



実施主体
担当部署

三重県県土整備部
防災砂防課

R6年度
進捗状況:○

取組概要

三重県と津地方気象台は共同で、大雨で土砂災害発生危険性が高まった時に土砂災害警戒情報を発表。

地域住民の避難行動や市町による避難指示等の発令を適時・適切に行っていただけるよう、「三重県土砂災害情報提供システム」を運用。

取組内容の工夫点・課題・留意点

令和6年度に二次元コードを掲載したポスターを配布し、システムに関する広報活動を行った。

取組による効果

昨年度に比べ「土砂災害情報提供システム」のアクセス数は約2.3倍に増加。

活用可能な制度等

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 〔 水位計・監視カメラ・簡易量水標の設置
 ①設備(水位計・監視カメラ・簡易量水標の設置)
 『危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置』 〕



令和6年度の実施内容

- 簡易型河川監視カメラの設置 (服部川、河合川)

■ 河川状況をリアルタイムで提供



(写真:一級河川久米川)

■ 危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置状況(淀川水系)

	R5まで	R6	R7以降
危機管理型水位計	36箇所	—	—
簡易型河川監視カメラ	7箇所	2箇所	4箇所

実施主体
担当部署

三重県県土整備部
河川課
伊賀建設事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

三重県の河川DX中期計画(2022~2026)に基づき、危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラを拡充し、リアルタイムの河川情報を提供する。

取組内容の工夫点・課題・留意点

—

取組による効果

洪水時には、危機管理型水位計や簡易型河川監視カメラにより切迫感のある情報をリアルタイムで提供することにより、水防活動や住民の適切な避難行動を促す。

活用可能な制度等

—

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・土砂災害防止月間(6月)等における広報活動を実施
- 県広報誌による周知
- 県公報番組(テレビ・ラジオ)による周知

県広報誌



県立図書館及び県民ホールでの展示



実施主体
担当部署

三重県県土整備部
防災砂防課

R6年度
進捗状況:○

取組概要

土砂災害や土砂災害警戒区域等に関する県民の意識を向上させるため、県公報番組(ラジオ)での広報活動や、県立図書館等での展示による広報を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

土砂災害防止月間に合わせて、わかりやすい広報を心掛けて実施。

取組による効果

土砂災害警戒区域等の避難につながる情報発信と土砂災害に関する危機意識の醸成が図れた。

活用可能な制度等

R6取組事例 (京都府)

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:京都府】

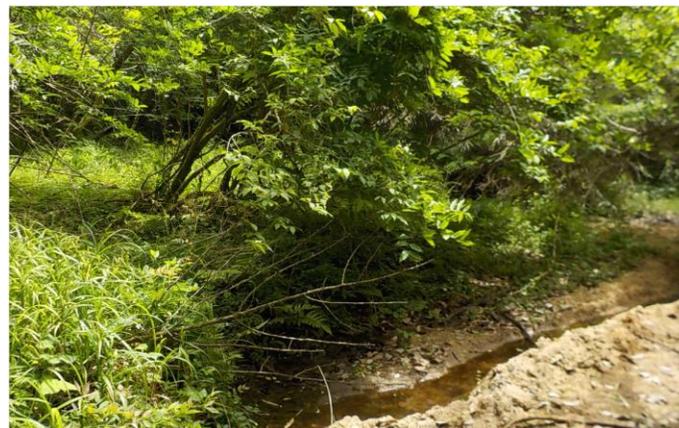
課題対応: R1-2

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

〔 河川維持工事 ①伐木、②浚渫 〕

【主な整備内容】

渋久川



実施主体
担当部署

京都府山城南土木事務
所河川砂防課

R6年度
進捗状況:○

取組概要

京都府管理河川の伐木、浚渫等

取組内容の工夫点・課題・留意点

作業用通路が無いため搬出が困難。

取組による効果

河川断面の確保。

活用可能な制度等

—

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

〔 森林の整備・保全
 ①治山事業 ②間伐等の森林整備 〕

『治山対策・森林整備の実施による、森林が有する浸透・保水機能等の維持・向上』

【主な整備内容】

○治山事業 谷止工（南山城村北大河原欠ヶ原地内）



○森林整備事業 間伐（南山城村童仙房葎屋外）



作業道新設



作業前



作業後

実施主体
担当部署

森の保全課
林業振興課

R6年度
進捗状況:○

取組概要

令和2年の豪雨により溪床の堆積土砂が崩壊し、溪床勾配の緩和及び山脚を固定するための治山ダム工を設置することにより土砂流出等の防止を図り、当該森林の持つ水源かん養機能を高度に発揮させるもの。
 また、森林整備の実施により、森林が有する浸透・保水機能等の維持を行う。

取組内容の工夫点・課題・留意点

工事箇所隣接する鉄道施設への配慮等、関係機関との調整し施工を行った。

取組による効果

- ・森林の土砂流出防止機能の向上
- ・水源かん養機能の向上

活用可能な制度等

特になし

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:京都府】

課題対応: R7-2

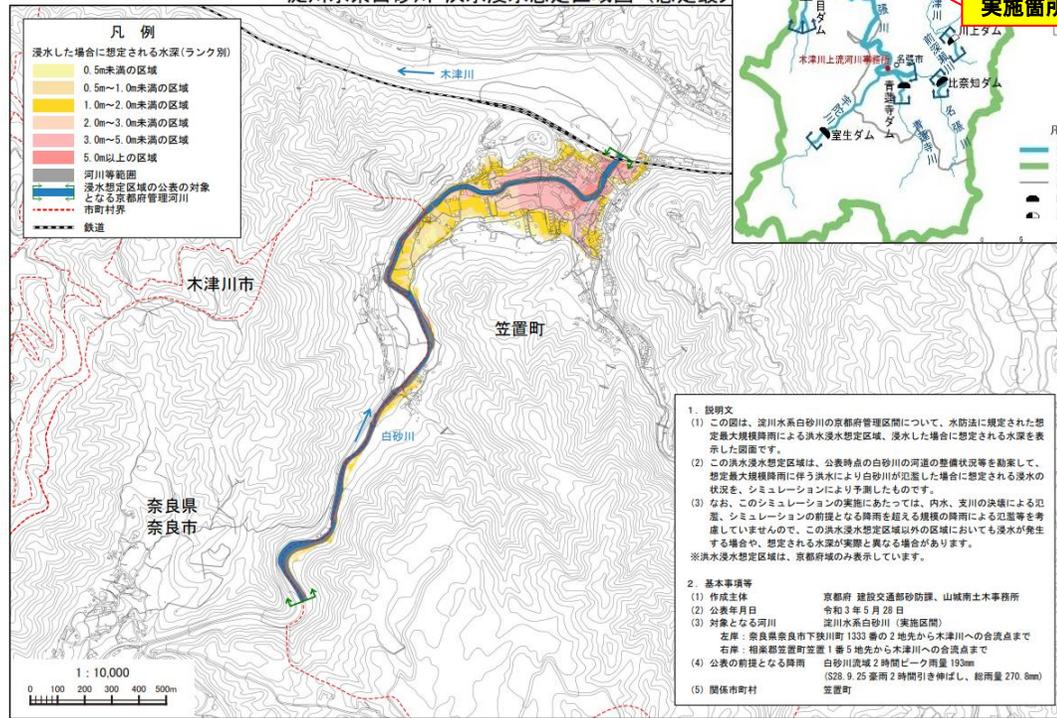
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 水害リスク情報の空白域の解消
『水害リスク情報の空白域の解消』 〕

(実施河川)

笠置町 横川、打滝川、白砂川、布目川
南山城村 山城谷川、渋久川

淀川水系白砂川 洪水浸水想定区域図(想定最大)



1. 説明文
 (1) この図は、淀川水系白砂川の京都府管理区間について、水防法に規定された想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
 (2) この洪水浸水想定区域は、公表時点の白砂川の河道の整備状況等を勘案して、想定最大規模降雨に伴う洪水により白砂川が氾濫した場合に想定される浸水の状況を、シミュレーションにより予測したものです。
 (3) なお、このシミュレーションの実施にあたっては、内水、支川の決壊による氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域以外の区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際と異なる場合があります。
 ※洪水浸水想定区域は、京都府域のみ表示しています。

2. 基本事項等
 (1) 作成主体 京都府 建設交通部砂防課、山城土木事務所
 (2) 公表年月日 令和3年5月28日
 (3) 対象となる河川 淀川水系白砂川(実施区間)
 名称: 奈良県奈良市下鉄川町1333番の2地先から木津川への合流点まで
 石障: 相楽郡笠置町笠置1番5地先から木津川への合流点まで
 (4) 公表の前提となる降雨 白砂川流域2時間ピーク雨量193mm
 (S28.9.25豪雨2時間引き伸ばし、総雨量270.8mm)
 (5) 関係市町村 笠置町

測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 2.H6 1086



<p>実施主体 担当部署</p>	<p>京都府建設交通部 砂防課</p>	<p>R6年度 進捗状況:○</p>
<p>取組概要 R3水防法改正以前には浸水想定区域の指定対象とされていなかった河川のうち、周辺に住宅等の防護対象のあるものについて指定対象に追加された。 浸水想定区域図を作成し、公表している。</p>		
<p>取組内容の工夫点・課題・留意点 今後、水防法に基づく浸水想定区域の指し手続きを行う予定。</p>		
<p>取組による効果 水害リスク情報の空白地帯を解消し、当該河川流域における円滑かつ迅速な避難につながる。</p>		
<p>活用可能な制度等 特になし</p>		

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 要配慮者利用施設における避難計画の策定及び訓練の促進
『避難訓練の実施』 〕

【説明時の様子】



【訓練時の様子】



実施主体
担当部署

京都府建設交通部
砂防課

R6年度
進捗状況:○

取組概要

笠置保育所が実施した避難訓練に京都府も参加し、土砂災害の概要や土砂災害危険度の入手方法、周辺道路の異常気象時通行規制について、施設長や職員に説明した。

取組内容の工夫点・課題・留意点

笠置町役場と協働で取り組み、土砂災害の危険性について府から説明するとともに、避難体制への支援について市から説明され、警戒避難体制の確認ができた。

取組による効果

避難計画に基づく訓練を実施することでより円滑かつ迅速な避難につながる。

活用可能な制度等

特になし

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 まるごとまちごとハザードマップの整備
『まるごとまちごとハザードマップの整備』 〕

スマートフォン版位置情報を活用した危険度リスク表示

GPS機能により位置情報を取得し、現在地のリスクをHome_地図画面で表示可能とした。

The image displays several screenshots of a smartphone application titled '京都府土砂災害警戒情報' (Kyoto Prefecture Landslide Disaster Warning Information). The app interface includes a menu, current weather and rainfall data (e.g., 30mm rainfall), and a map showing hazard levels. Callout boxes provide additional context:

- Callout 1: 'GPSをONにすると、今いる地点の「気象情報」「土砂災害の危険度レベル」「降雨雨量」「土砂災害警戒区域の有無」がトップページに表示される。' (When GPS is turned on, weather information, landslide hazard level, rainfall amount, and presence of landslide disaster warning areas are displayed on the top page.)
- Callout 2: '地図画面でもトップページと同様に、危険度情報が表示される' (On the map screen, hazard information is also displayed, similar to the top page.)
- Callout 3: '府民向けスマホ版 土砂災害危険度' (Citizen-oriented smartphone version of landslide disaster hazard level).
- Callout 4: '府民向けスマホ版 トップページ' (Citizen-oriented smartphone version of the top page).

実施主体 担当部署	京都府建設交通部 砂防課	R6年度 進捗状況:○
--------------	-----------------	----------------

取組概要
 土砂災害警戒情報の発信
 土砂災害警戒情報システムの高度化
 (継続実施)
 土砂災害警戒区域の指定

取組内容の工夫点・課題・留意点
 スマートフォンで情報を入手できるため、より手軽にどこでもリスク情報にアクセスできる。

取組による効果
 現在地の「土砂災害の危険度レベル」、「土砂災害警戒区域の有無」などを表示することにより、自分が今いる位置での土砂災害のリスクを簡単に把握できるようになり、迅速な避難につながる。

活用可能な制度等
 特になし

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:京都府】

課題対応: R8-6

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 水位計・簡易カメラ・浸水センサー等の拡充・閲覧周知
『設備(水位計・簡易カメラ・浸水センサー等)の設置、更新』 〕

【観測設備設置位置図】



実施主体
担当部署

京都府建設交通部
砂防課

R6年度
進捗状況: ○

取組概要

観測設備を整備
 雨量計 3箇所
 水位計 1箇所(危機管理型)
 カメラ 1箇所

取組内容の工夫点・課題・留意点

増設するには今まで以上に予算の確保が必要。

取組による効果

洪水時のリアルタイム情報を提供することにより、円滑かつ迅速な避難につながる。

活用可能な制度等

特になし

R6取組事例 (奈良県)

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
 (河川整備計画に基づく河川改修の実施
 町並川地下バイパス河川の整備)

【主な整備内容】



- 工事名
: 町並川 地下バイパス河川工事
(分流施設工事)
- 工期 : R5.8.30~R6.8.30
- 工事延長L=25m
分水施設工 一式

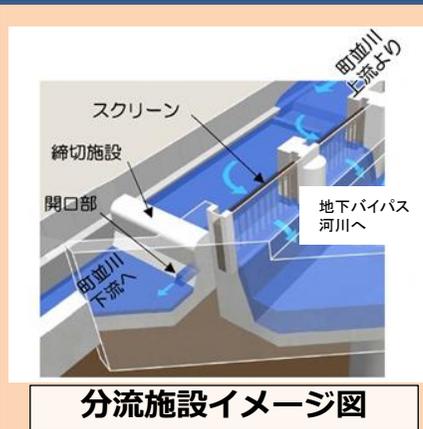
実施主体 担当部署	奈良県県土マネジメント 部 河川整備課	R6年度 進捗状況: R7年度完了 予定
--------------	------------------------	-------------------------------

取組概要
 住民の方々や学識経験者の意見を踏まえて作成した「淀川水系(奈良県域)河川整備計画」に基づいた改修工事の実施を行っている。
 町並川では河道拡幅が困難な箇所、地下バイパス河川の整備を行っている。

取組内容の工夫点・課題・留意点
 川沿いに歴史的な町並みが形成されており、河道拡幅が困難なため、地下バイパス河川の整備で治水安全度を確保。

取組による効果
 供用に向け、現在工事を行っている。
 供用開始が始まれば、河川整備計画に基づく治水安全度が確保される。

活用可能な制度等
 特になし。



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 水害履歴の情報発信
奈良県災害リスク情報システムの運用開始 〕

【奈良県災害リスク情報システム】

地図上の任意の地点をクリックすると、その地点における洪水浸水想定区域(河川名、浸水深)を確認できる

特徴① どの河川からの浸水リスクがあるのか確認できる

属性表示	
区域図の種類	想定最大規模降雨
河川名	宇陀川
想定浸水深	4.181m
河川名	名張川
想定浸水深	2.692m

任意の地点をクリックすると、どの河川からの浸水リスクがあるのかを確認できる。
地図上では、最大の浸水深が着色されている。

特徴② 細かな浸水深まで確認できる

属性表示	
区域図の種類	想定最大規模降雨
河川名	宇陀川
想定浸水深	2.597m

特徴③ 土砂災害警戒区域等と洪水浸水想定区域を同時に表示できる

土砂災害警戒区域
洪水浸水想定区域

地図上の任意の地点をクリックすると、シミュレーションに基づく詳細な浸水深が表示される。

『土砂災害警戒区域等』と『洪水浸水想定区域』を同時に確認することができる。

実施主体 担当部署	奈良県県土マネジメント部 河川整備課	R6年度 進捗状況:レ
--------------	-----------------------	----------------

取組概要
降雨情報や土砂災害に関する情報を確認することができるシステムに改良を行い、これまで河川ごとにホームページ上にPDFで公開していた浸水想定区域図が、奈良県災害リスク情報システム上で閲覧可能

取組内容の工夫点・課題・留意点
地図上の任意の地点をクリックすると、どの河川から浸水のリスクがあるのか、河川ごとにその詳細な浸水深を確認することができるほか、土砂災害警戒区域等と洪水浸水想定区域図を同時に確認することも可能

取組による効果
自然災害のリスクを把握することで、自分事化につながる

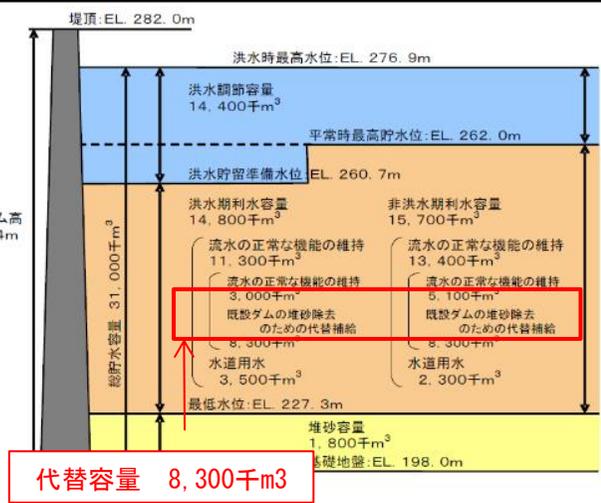
活用可能な制度等
特になし

R6取組事例 (水資源機構)

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

〔 既設ダムの機能維持
①既設ダムの堆砂除去 〕

【主な整備内容】



実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

木津川上流ダム群(室生ダムを除く)の土砂管理について、川上ダムの代替容量を利用し、木津川上流ダム群でローテーションを組み、各ダムの貯水位を低下させ堆積土砂の陸上掘削を行うことにより、ライフサイクルコストを低減する。

取組内容の工夫点・課題・留意点

堆砂除去により発生した砂は、ダム下流への土砂還元や地域貢献として公共事業への転用や民間企業との連携により有効活用を図ることとなっているが、それらを実現するための検討、調整。

取組による効果

- ・ 堆砂除去による貯水池内のリフレッシュ (有効容量のアップ)
- ・ 陸上掘削によるライフサイクルコストの低減

活用可能な制度等

—



高山ダム堆砂除去工事の状況

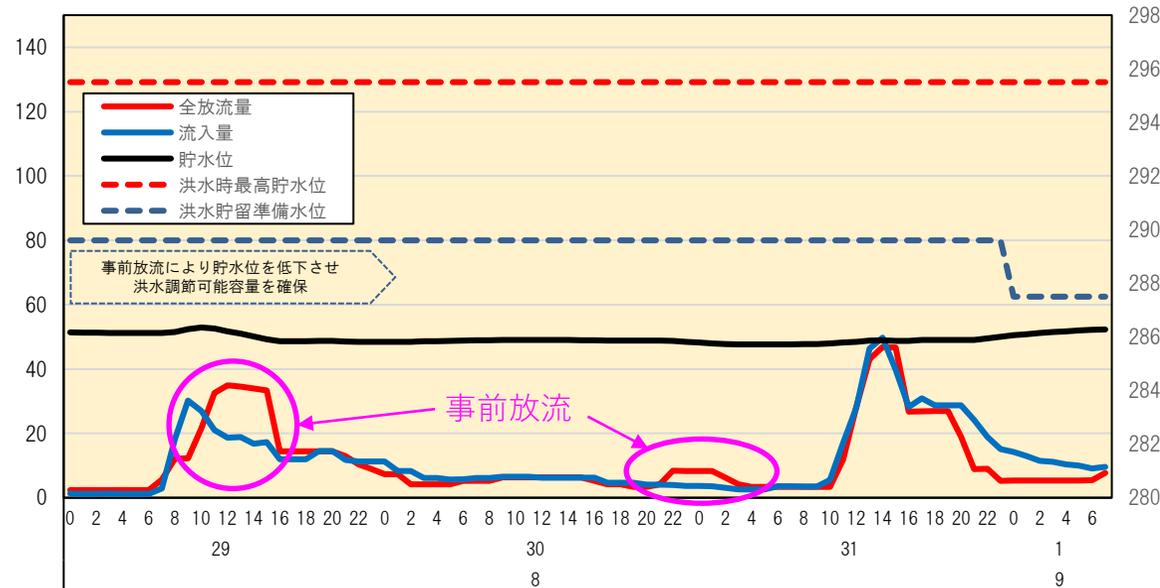


室生ダム副ダム堆積土砂除去工事の状況

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

〔 利水ダムにおける事前放流の実施、体制構築
②ダムの事前放流の実施 〕

【主な整備内容】



台風10号(R6.8)における室生ダムのハイドロ図

台風10号(R6.8)における各ダムの事前放流量等

ダム名	事前放流量	ダムの水位低下量	備考
室生ダム	345千m ³	0.57m	

実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

既設5ダムにおいては、令和3年度までに治水協定に基づく事前放流実施要領を策定済み。川上ダムも試験湛水終了後に策定予定。また、8月の台風10号の際に室生ダムにて、実施要領に従い適切に事前放流を実施した。

取組内容の工夫点・課題・留意点

確実な事前放流を実施するためには、降雨予測の精度向上を図る必要がある。

取組による効果

事前放流により出水前に貯水位を低下させることが可能であり、治水機能の向上が図られる。

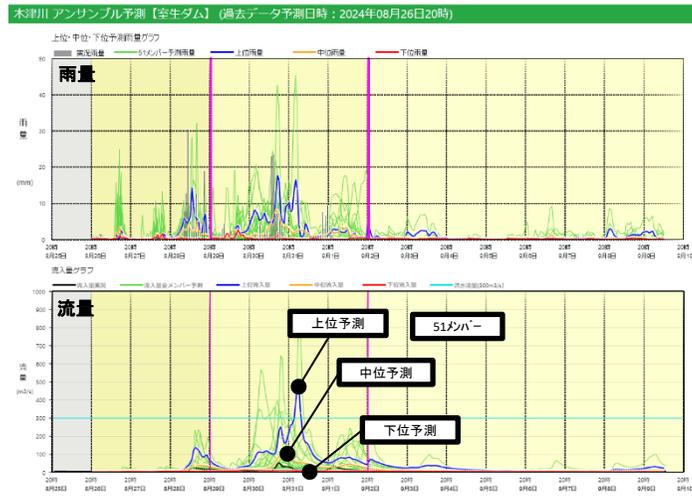
活用可能な制度等

—

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 効果的な事前放流の実施(予測精度の向上)
- ① 予測精度の向上

【主な整備内容】



概略【室生ダム】2024年08月26日23時21分更新 (過去データ表示中)

室生ダム	予測発表時刻	～3日先				4日～7日先			8日先～		
		アンサンブル予測			カイダンス予測	アンサンブル予測			アンサンブル予測		
		上位	中位	下位	micos72h予測	上位	中位	下位	上位	中位	下位
雨量	08月26日20時	最大48時間雨量	100.7mm	47.5mm	10.0mm	27.4mm	0	0	2 (4%)	0 (0%)	0 (0%)
		110mm/48h超過	1 (2%)	0	0	0	0	2 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	
		270mm/48h超過	0 (0%)	0	0	0	0	2 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	
流入量	08月26日20時	最大流入量	136.1m³/s	37.5m³/s	4.2m³/s	12.4m³/s	11.6m³/s	482.6m³/s	95.9m³/s	10.5m³/s	71.7m³/s
		12m³/s超過	33 (65%)	0	1	0	0	2 (4%)	0 (0%)	2 (4%)	
		300m³/s超過	0 (0%)	0	0	0	0	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	
下流	08月26日20時	下名張 7.40m超過	0 (0%)	0	0	0	0	2 (4%)	0 (0%)	2 (4%)	
		295.0m超過(ただし書き開始)	0 (0%)	0	0	0	0	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	
貯水位	08月26日20時	回復量(制限水位-0.2m)	47 (92%)	1	1	1	1	51 (100%)	51 (100%)	51 (100%)	
		回復量(制限水位-0.5m)	37 (73%)	1	1	1	1	51 (100%)	46 (90%)	46 (90%)	
		回復量(制限水位-0.8m)	33 (65%)	0	1	1	1	50 (98%)	43 (84%)	43 (84%)	
		回復量(洪水調節容量)	0 (0%)	0	0	0	0	17 (33%)	1 (2%)	1 (2%)	

※(予測名の欄)にマウスを移動させると、上中下位の判定方法が表示されます。

アンサンブル予測の表示画面

実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

事前放流をより効果的に行うため、長時間先降雨予測であるアンサンブル技術を導入し、事前放流の高度化(早期判断、放流量の合理化)を目指している。

取組内容の工夫点・課題・留意点

事前放流の基準降雨量の超過や洪水調節に至る雨の経験が不足しており、傾向にばらつきがあるため、引き続き事例収集に努める必要がある。

取組による効果

- ダム下流河川利用者の安全確保 (少量のダム放流での対応が可能になる)
- 貯留水の有効活用 (発電放流設備からの放流)

活用可能な制度等

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 ダムの防災操作や放流連絡体制の周知(地域住民へ)
避難の必要性やダム警報局スピーカーの周知 〕

①ダムの防災操作や放流連絡体制の周知



洪水対応演習の様子(R6.5)



青蓮寺・室生・比奈知ダム放流連絡会(R6.5)



高山ダム放流連絡会(R6.7)

実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

洪水対応演習および住民参加型訓練を実施し、避難の必要性や警報局スピーカーの周知を行った。防災連絡会ではダム防災操作の説明、放流連絡体制の周知を行った。

取組内容の工夫点・課題・留意点

毎年繰り返し周知をすることで、ダム操作に対するより一層の理解を得ることができる。

取組による効果

事前にきちんと説明、周知を行うことで、洪水時や緊急時などもスムーズなやりとりをすることができる。

活用可能な制度等

—

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

（ 関係機関が連携した情報伝達訓練の実施

① 関係機関が連携した情報伝達訓練の実施



名張市防災訓練の様子 (R6.11)



名張市防災訓練の様子 (R6.11)

実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R6年度
進捗状況:△

取組概要

名張市が主催する防災訓練に参加

取組内容の工夫点・課題・留意点

関係自治体が主催する訓練には積極的に参加し、関係自治体との連携の強化を図る。

取組による効果

市内の浸水被害の状況及び対策について、情報共有と連携を図ることができる。

活用可能な制度等

—

R6取組事例
(津地方気象台
奈良地方気象台)

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

住民の避難行動を促し、迅速な水防活動を支援するため、スマートフォンを活用したリアルタイム情報の提供やプッシュ型情報の発信を実施

『線状降水帯に関する情報の改善』



実施主体 担当部署	気象庁	R6年度 進捗状況:○
--------------	-----	----------------

取組概要
線状降水帯による大雨の可能性がある程度高いことが予想された場合、気象情報を用いて、半日程度前から府県単位で「線状降水帯」というキーワードを使って呼びかける。

取組内容の工夫点・課題・留意点
線状降水帯についての情報は、今後も段階的に、対象地域を狭めていくこと、予測時間を延ばしていくことを予定している。

取組による効果
府県単位で線状降水帯の発生予測を半日前から発表することにより、対象を絞りつつ、関係機関に線状降水帯への危機感を共有することができる。

活用可能な制度等
-

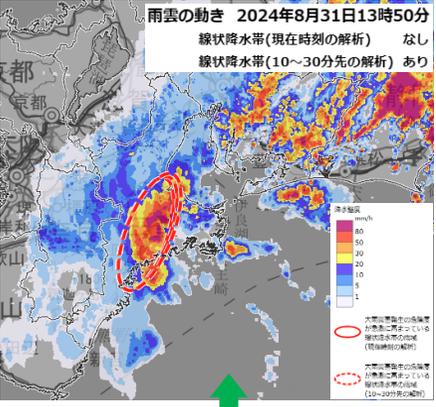
大雨と高波に関する三重県気象情報 第4号
令和5年6月2日06時01分 津地方气象台発表

(見出し) 東海地方では、2日午後から3日午前中にかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性があります。

昨年度までは広域での呼びかけでしたが、今年度から府県単位での呼びかけに変わりました

台風第10号に関する三重県気象情報 第19号
令和6年8月31日05時42分 津地方气象台発表

(見出し) 三重県では、9月1日午前中にかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性があります。



8月31日明け方に「線状降水帯」の呼びかけの情報が発表され、昼過ぎに「線状降水帯」が発生しています(気象庁HP)

R6取組事例
(国立研究開発法人
森林研究・整備機構
森林整備センター)

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター】

課題対応: R6-7

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

（ 森林の整備・保全
間伐等の森林整備
『植栽: 12ha、下刈: 12ha、除伐: 1ha、間伐: 25ha』 ）

【主な整備内容】

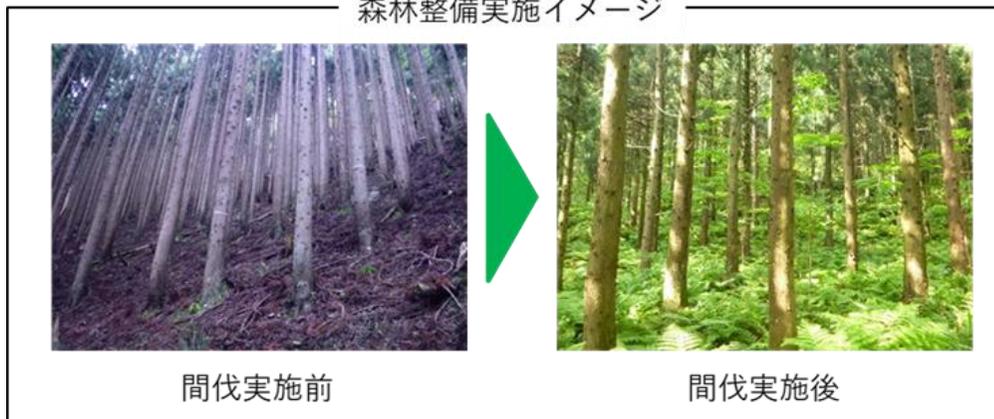
水源林の整備



針交混交林

育成複層林

森林整備実施イメージ



間伐実施前

間伐実施後

実施主体
担当部署

近畿北陸整備局
奈良水源林整備事務所
津水源林整備事務所

R6年度
進捗状況: ○

取組概要

奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な森林整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る。

取組内容の工夫点・課題・留意点

森林の有する公益的機能を持続的に発揮させるため、針広混交林の造成や誘導伐の実施により育成複層林化を推進。また、流木災害防止の観点から販売可能な間伐材等は搬出し有効利用を図る。

取組による効果

森林整備を計画的に実施することで、樹木の生長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化によりピーク流出量の発生時間を遅らせるなど、保安機能の強化を図る。

活用可能な制度等
水源林造成事業

R6取組事例
(木津川上流河川事務所)

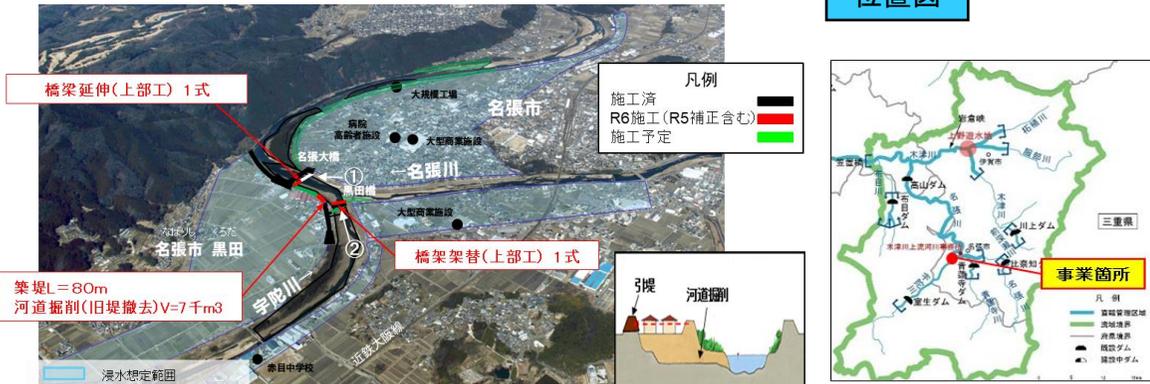
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河川改修

- ①築堤・護岸工 ②河道掘削 ③河道拡幅 ④橋梁架替

『名張川 名張かわまちづくり一体型浸水対策事業(I期)』 名張川:名張市黒田地区/引堤河川改修(約80m)

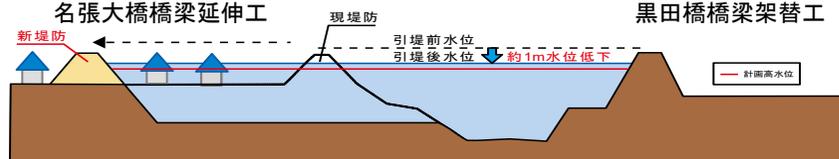
【主な整備内容】



名張大橋橋梁延伸工



黒田橋橋梁架替工



※引堤計画図とかかわまち計画図は、現時点の計画であり、今後詳細設計等を実施することにより内容を変更する場合があります。

実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

名張市街地の浸水被害の軽減を図るため、「名張かわまちづくり」と連携して引堤及び河道掘削を推進し、安全度の向上を図る。令和6年度は名張大橋、黒田橋上部工、築堤護岸工を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

今後、気候変動による外力の増大とそれ伴う水災害の激甚化や発生頻度の増加などの事象を想定し、対策を進めていく。

取組による効果

河川整備計画で目標としている昭和28年台風13号洪水の降水量を1.1倍とした洪水に対して、名張川・宇陀川合流点付近の水位を約1m低下させ、堤防からの越水を回避し、名張市街地の浸水被害を軽減する。

活用可能な制度等

特になし。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河川改修

- ①河道掘削 ②河道拡幅 ③橋梁架替

『上野遊水地事業』 服部川:三田地区 / 河道掘削(約20,500m³)、伊賀上野橋:仮橋上部工

【主な整備内容】



河道掘削



伊賀上野端:仮橋上部工

実施主体 担当部署	木津川上流河川事務所	R6年度 進捗状況:○
--------------	------------	----------------

取組概要

上野遊水地、川上ダムの運用開始を受け、伊賀地域のさらなる治水安定度向上のため河道掘削を実施。令和6年度は服部川三田地区で河道掘削、伊賀上野橋仮橋上部工の施工を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

治水上の課題(内水への影響、上下流バランス、超過洪水への対応等)や維持管理、土地利用、自然環境への影響に留意が必要である。

取組による効果

河道掘削の計画的に実施することで段階的に治水安全度を向上させて浸水被害を軽減させることができる。

活用可能な制度等
特になし。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

1. 小中学校等における水災害教育の実施、2. 環境学習関係
- ①小中学校への出前講座の実施 ②環境学習関係
- 『宇陀市の大宇陀小学校で出前講座を実施』

【開催概要】

○日 時: 令和6年9月9日

○参加機関: 宇陀市立大宇陀小学校(4年生33名)

- 内 容: ①川の危険性
 ②川の治水・減災対策
 ③健全な水循環の重要性について
 ④簡易水質検査(パックテスト)
 ⑤オオサンショウウオについて



宇陀市立大宇陀小学校

実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

毎年、治水・防災・環境をテーマに、木津川上流河川事務所管内の小中学校で出前講座を実施している。令和6年度は大宇陀小学校で防災・環境をテーマに出前講座を開催した。

取組内容の工夫点・課題・留意点

4年生の児童を対象に興味を持ってもらうよう、クイズ形式のスライドで説明を行ったり、簡易水質検査(パックテスト)を実際に体験していただき、川の水をきれいにする事の大切さを理解するよう留意した。

取組による効果

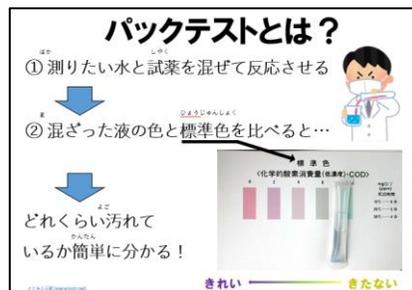
洪水の危険性及び治水対策や健全な水循環の重要性について、楽しみながら理解してもらった。

活用可能な制度等
特になし。

【川の危険性に関する説明資料】



【健全な水循環の重要性に関する説明資料】



■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:木津川上流河川事務所、紀伊山系砂防事務所】

課題対応: R8-1

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

1. 小中学校等における水災害教育の実施、
 - ①小中学校への出前講座の実施
 - 『宇陀市イベントで体験型防災教育を実施』

【開催概要】

- 日 時: 令和6年10月26, 27日
- 場 所: 「うだ産フェスタ2024」
(宇陀市総合体育館)
- 参加者: 延べ約600名

- 内 容: ①流域治水に関するパネル展示
- ②照明車展示
- ③TEC-FORCE体験
- ④土砂崩れメカニズム体験
- ⑤液状化現象メカニズム体験



実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R6年度
進捗状況: ○

取組概要

伊勢湾台風から65年目を機に、宇陀市が主催するイベント「うだ産フェスタ2024」にて水害や土砂災害について学べる防災教育ブースを出展。

取組内容の工夫点・課題・留意点

来年2025年は、阪神大震災から30年目であることから、本局防災室の支援により地震災害ブースも設置。

取組による効果

実際に体験していただくことで、防災について楽しく学んでいただき、命の守り方を知っていただくことができた。

活用可能な制度等

特になし。

TEC-FORCE体験の様子



土砂崩れメカニズム体験の様子



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

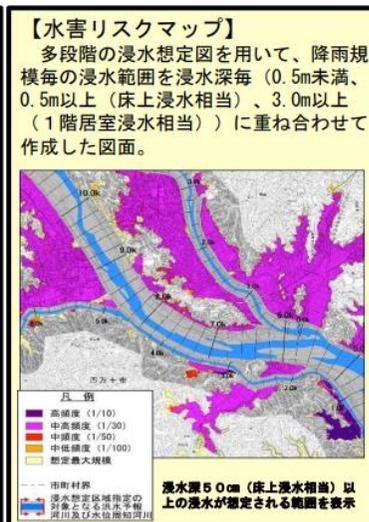
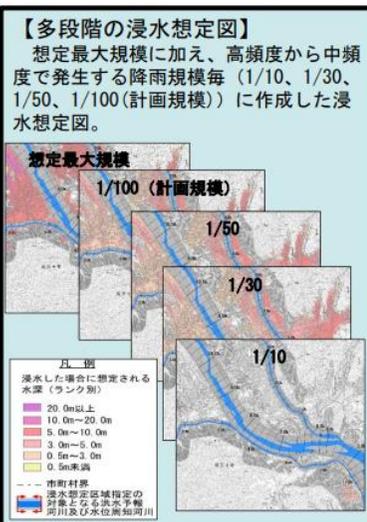
1. 水害リスクの周知

①内外水リスクマップの作成・周知

『内外水リスクマップの作成』

○国土交通省では、流域治水の取り組みを推進するため、土地利用や住まい方の工夫、水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討及び企業の立地選択に活用出来るよう、比較的発生頻度が高い降雨規模も含めた複数の降雨規模毎に作成した浸水想定図(「多段階の浸水想定図」と、それらを重ね合わせて、浸水範囲と浸水頻度の関係を図示した「水害リスクマップ」を作成している。

○これに加えて、主要河川以外の支川や内水氾濫による浸水リスクを示す内外水統合型のリスクマップを作成することとしており、現在作成中。



実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

国土交通省では、土地利用や住まい方の工夫、水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討及び企業の立地選択など、流域治水の取り組みを推進するため、比較的発生頻度が高い降雨規模も含めた複数の降雨規模毎に作成した浸水想定図(「多段階の浸水想定図」と、それらを重ね合わせて、浸水範囲と浸水頻度の関係を図示した「水害リスクマップ」を作成・公表することとしました。

取組内容の工夫点・課題・留意点

内外水統合型リスクマップは、河川ごとではなく、地点毎の浸水頻度を表示できる。

取組による効果

地点毎の浸水頻度を表示できることにより、中～高頻度の被害を軽減する減災対策(防災まちづくり、田んぼダム等)の検討への活用が期待できる。

活用可能な制度等

特になし。

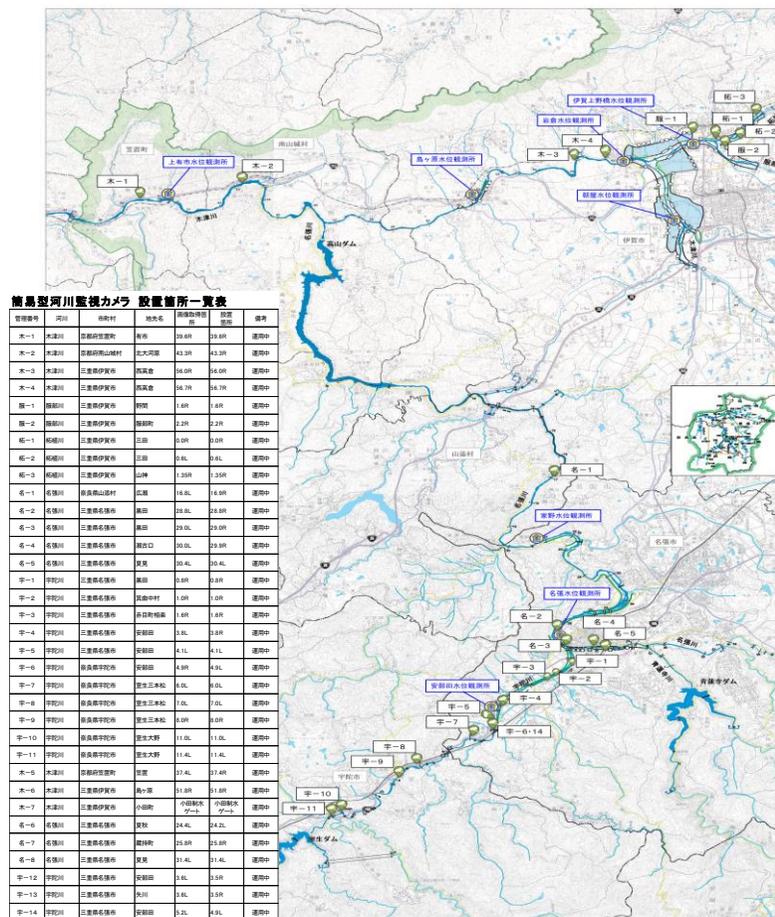
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

1. 水位計・簡易カメラ・浸水センサー等の拡充・閲覧周知
 ①設備(水位計・簡易カメラ・浸水センサー等)の設置、更新
 『簡易型河川監視カメラのバッテリー更新』

【簡易型河川監視カメラ】

令和元年度 25基
 令和2年度 8基
 令和3年度 1基
 計 34基運用

令和6年度
 バッテリー更新 34基



実施主体 担当部署	木津川上流河川事務所	R6年度 進捗状況:○
--------------	------------	----------------

取組概要
 氾濫の危険性が高く、人家や重要施設のある箇所に「簡易型河川監視カメラ」を設置し、河川状況を確認することで、従来の水位情報に加え、リアリティーのある洪水状況を画像として住民と共有し、適切な避難判断を促す。

取組内容の工夫点・課題・留意点
 簡易型河川監視カメラは機能を限定することによりコストを低減。ソーラー電源活用で屋外に容易に設置することができる。

取組による効果
 簡易型河川監視カメラは危機管理型水位計とともに、「川の防災情報」ホームページにおいて一般に公開されており、地域の方々がいち早く把握する手段として情報提供をしている。

活用可能な制度等
 特になし。

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:木津川上流河川事務所、伊賀市】

課題対応: R9-15

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

1. マイ・タイムラインの作成
 - ① マイ・タイムライン作成支援のワークショップの開催

『伊賀市においてマイ・タイムライン講習会を実施』

【開催概要】

日 時: 令和7年2月8日(土)
 場 所: 伊賀市ゆめぱりすセンター2階大会議室
 参加者: 伊賀市住民 35名
 講 師: 気象キャスター 新見麗菜氏
 (流域治水アンバサダー、気象予報士)
 気象キャスター 土井邦裕氏
 (流域治水アンバサダー、気象予報士、防災士)
 内 容: ①「伊賀市防災・情報アプリ」の登録案内について
 ②最近の気象災害と情報について
 ③マイ・タイムライン作成講習



実施主体
担当部署

・木津川上流河川事務所
・伊賀市

R6年度
進捗状況: ○

取組概要

近年の水害傾向や地域の特徴など知識を得ながら、自分自身の家族構成や生活環境にあわせた、オリジナルの「マイ・タイムライン」の作り方や地域に広めるためのポイントなどを確認することを目的として講習会を開催。

取組内容の工夫点・課題・留意点

国土交通省は「流域治水」の情報発信を狙い、テレビやラジオに出演する気象キャスター35人を「流域治水アンバサダー」に委嘱しており、今回、その中から講師をしていただいた。

取組による効果

「マイ・タイムライン」をつくっておくことで自分の住んでいる地域の災害リスクや避難所の場所を把握することができ、防災力の向上に繋がった。受講者の中には、地区の防災リーダーなどが含まれており、地区の住民を対象としたマイ・タイムライン作成を自ら進めたいという声も聞かれた。リーダーの育成や地域防災の更なる活性化にも寄与できると期待できる。

活用可能な制度等
特になし

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

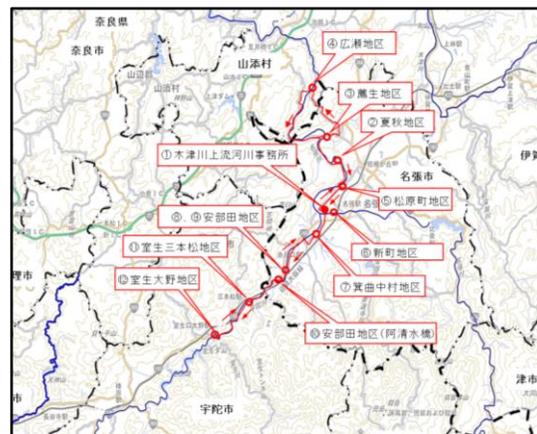
〔 水防団や地域住民が参加する重要水防箇所等
水害リスクの高い箇所の共同点検 〕

『構成機関を対象とした重要水防箇所合同点検の実施』

【開催概要】

- 日 時: ①令和6年8月21日(名張川筋)
②令和6年9月19日(木津川筋)
- 参加機関: ①名張市、山添村、伊賀建設事務所、奈良地方气象台
②伊賀市、笠置町、伊賀建設事務所、津地方气象台、
木津川ダム総合管理所

重要水防箇所合同点検ルート(名張川筋)



重要水防箇所合同点検の様子



実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

重要水防箇所とは洪水時に危険が予想され、重点的に巡視点検が必要な箇所を示したもので、関係者が予め熟知しておくことでより早く適切な水防活動を行うため、合同で現地確認を実施した。

取組内容の工夫点・課題・留意点

今回の合同点検にて最新の重要水防箇所に基づく洪水に対しリスクの高い区間を現地で確認し、洪水時の越水対策として、土のう等による水防活動を行う必要性を共通認識しました。

取組による効果

合同点検を実施することで、関係機関が連携しながら洪水時の水防活動や住民避難活動について再認識し本番に備えることができる。

活用可能な制度等

特になし

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

関係機関が連携した実働水防訓練の実施
水防訓練の実施

『伊賀線第一陸閘の操作訓練を実施』

【開催概要】

- 日 時: 令和6年5月25, 26日
23:00~1:30
- 場 所: 伊賀鉄道新居駅
- 参加者: 木津川上流河川事務所 6名
伊賀市 4名
伊賀鉄道株式会社 1名
伊賀市消防団 47名
その他 報道関係 2社



【陸閘閉鎖】



実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

伊賀線第一陸閘は、新居(にい)遊水地(上野遊水地の4つある遊水地の一つ)の周囲堤と伊賀鉄道が交差する箇所を設置した遊水地内に流入した洪水流を遊水地の外に氾濫することを防ぐ施設です。

国、伊賀市、伊賀鉄道株式会社、伊賀市消防団と連携した操作訓練を実施しました。

取組内容の工夫点・課題・留意点

運用を開始した令和4年度は、伊賀鉄道を一時的に運休し、日中に行いましたが、昨年度からは、鉄道利用者に配慮し、伊賀鉄道の運行が終了した夜間に実施しました。

取組による効果

関係機関が連携した操作訓練を行うことで、役割や手順など必要なことをそれぞれが確認し、本番に備えることができました。

活用可能な制度等

特になし

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:木津川上流河川事務所、笠置町】

課題対応: R9-13

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

〔 まるごとまちごとハザードマップの整備 〕

『笠置町にて「まるごとまちごとハザードマップ」標識の除幕式を実施』

【日 時】 令和7年2月5日(水)10:00～

【場 所】 笠置町立笠置保育所
(京都府相楽郡笠置町有市羽根田)

【主 催】 木津川上流河川事務所、笠置町

【参加者】 笠置町(笠置町長 他2名)
笠置保育所(所長)
近畿地方整備局(水災害予報センター長)
木津川上流河川事務所(所長 他4名)

【設置状況】



実施主体 担当部署	・木津川上流河川事務所 ・笠置町	R6年度 進捗状況:○
--------------	---------------------	----------------

取組概要
市町村等と連携して水防災意識社会の再構築に取り組んでおり、生活空間である“まちなか”に想定される浸水深等を標識として設置する「まるごとまちごとハザードマップ」の取組を推進している。このたび、京都府域で初となる浸水深標識を笠置町に設置。

取組内容の工夫点・課題・留意点
最大浸水深の位置を目視できるように標識を工夫。

取組による効果
「まるごとまちごとハザードマップ」の取り組みが、笠置町にお住まいの皆さまの防災意識の向上の一役に繋がる。

活用可能な制度等
特になし

グリーンインフラに対する取り組み

自然環境の保全・復元などの自然再生
縦横断連続性の再生

『「なまず遡上作戦2024」を実施』

【開催概要】

- 日 時: 令和6年5月11日
- 場 所: 名張川左岸支川留い川合流付近
- 参加者: 約80名
 地元の小学生及び保護者、名張市河川協力団体NPO、錦生地区、ニシキッズのびのび、河川レンジャー、日本オサンショウウオセンター、(独)水資源機構、木津川上流河川事務所引堤工事関係者、環境調査業務関係者



【活動中の様子】



実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

2021年より毎年、名張市内のNPOと協力して名張川と名張川の支川「留い川(とめいがわ)」の合流部で土のうや石を使用した簡易魚道を設置しています。今年は地元の小学生17名も参加しました。

取組内容の工夫点・課題・留意点

活動中は大人に混じって小学生も、スタッフの助言をうけ、土のう製作に参加しました。また、『河川改修』については、クイズを入れてわかりやすく説明しました。

取組による効果

簡易魚道をつくり、なまずの遡上・産卵を助ける活動を通じて参加された小学生には、水防工法や名張かわまちづくりについて学んでいただきました。これが機会となり防災・減災に意識してもらえるようになりました。

活用可能な制度等

特になし

グリーンインフラに対する取り組み

魅力ある水辺空間・賑わい創出
インフラ・ツーリズムとの連携

『木津川上下流交流イベントを実施』

【開催概要】

- 日 時:令和7年1月25日
- 参加者:16名(八幡市内の小学生、保護者)
- 主 催:木津川上流河川事務所
- 協 力:(独)水資源機構
淀川河川事務所河川公園課
- 行 程:①さくらであい館出発
②川上ダム
③すいすい館(上野集中管理センター)
④小田陸間、ヤギ、小田越流堤
⑤道の駅「お茶の京都みなみやましろ村」



【活動中の様子】



実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

木津川の下流域の方々に対し、上流にどのようなインフラ施設があるのか知ってもらうためにバスで巡り、防災・環境について学習していただく上下流交流イベントを実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

クイズやヤギの餌やり体験等児童に楽しんでもらえるよう企画。

取組による効果

木津川上流部に位置する治水施設(ダムや上野遊水地)により、下流部を洪水から守っていることを知ってもらい、防災に対する意識を高める効果がある。

活用可能な制度等

特になし

R6取組事例
(紀伊山系砂防事務所)

■ 対策事例 【淀川水系(木津川上流分会)流域治水プロジェクト:紀伊山系砂防事務所】

課題対応:R

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

〔木津川水系に流入する土砂流出抑制による土砂・洪水氾濫対策
『砂防堰堤の整備』〕

【主な整備状況】

坂ノ下第3砂防堰堤
(三重県名張市)

年度当初(令和6年4月)



現在(令和6年12月)



大野砂防堰堤
(奈良県宇陀市)

年度当初(令和6年4月)



現在(令和6年12月)



実施主体 担当部署	紀伊山系砂防事務所 工務課	R6年度 進捗状況:○
--------------	------------------	----------------

取組概要

木津川水系における直轄砂防事業では、昭和34年9月の伊勢湾台風をはじめ、台風や集中豪雨等により山腹崩壊や土石流災害が発生しており、継続して砂防施設を整備している。

さらに、近年、全国で大きな被害をもたらしている土砂・洪水氾濫へ対応するための、施設整備を進めるほか、施設の適切な状況把握に基づく補修を推進。

取組内容の工夫点・課題・留意点

昨年度完成した三本松砂防堰堤について、一般の方により砂防施設に関心を持っていただくことを目的に、砂防カードを作成。

取組による効果

木津川水系における土砂流出に起因する土砂・洪水氾濫被害および土石流・流木被害から国民の生命・財産および重要交通網等の社会基盤の保全を図る。

活用可能な制度等

特になし

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 〔小中学校における土砂災害教育の実施 『宇陀市の小学校で出前講座を実施』〕

【実施状況】

▼ 土砂災害について学んだあと・・・



映像を用いた土砂災害についての授業



模型を使って砂防堰堤の仕組みを解説



ハザードマップで自分の住んでる場所を確認

＜開催日＞ 令和6年10月17日(木)13:15～14:40
 ＜開催場所＞ 室生小学校 多目的室(奈良県宇陀市室生大野1912)
 室生オートキャンプ場(奈良県宇陀市室生大野3849)
 ＜参加者＞ 室生小学校4年生 計21名

▼ 災害の時に活躍する車両たちを実際に見て触れて体験しました！



対策本部車

排水ポンプ車

照明車

実施主体
担当部署

宇陀市建設課
紀伊山系砂防事務所
調査課
近畿技術事務所

R6年度
進捗状況:○

取組概要

宇陀市建設課および近畿技術事務所と合同で、室生小学校の生徒を対象に、土砂災害及び防災についての出前講座を開催

取組内容の工夫点・課題・留意点

ハザードマップを使って、避難所と自宅の位置、警戒区域の確認や模型を使った砂防堰堤の仕組みや災害時に活躍する車両展示など、子供達ができるだけ関心を持てるように説明を行った。

取組による効果

自治体と連携し、小学校等で防災に関する出前講座を行うことで、土砂災害について自分事化し、防災意識の向上につなげる。

活用可能な制度等
特になし

R6取組事例
(特定非営利活動法人
奈良県防災士会)

被害対象を減少させるための対策

〔 自主防災会や自治会、行政に対して、災害への備えの講演や
アドバイスを実施 メディア出演による防災啓発と広報活動 〕

【主な整備内容】

木津川流域(県内及び全国放送を含む)における啓発や広報活動

- 1/9(火) NHK奈良放送局「地震への備え」
- 1/19(金) 都祁中学校全校生徒対象防災学習
- 1/29(月) 機関紙「ふくし都祁(全戸配布)」取材
- 2/5(月) 奈良テレビ取材(奈良市防災リーダー研修について)
- 2/17(土) NHK関西発ラジオ深夜便「能登半島地震と受援力」
- 4/8(月) 奈良市朱雀地区「能登半島地震と防災タイムライン」
- 7/4(木) 都祁中学校地震対応練習
- 8/13(火) NHK奈良放送局「南海トラフ地震臨時情報に伴う地震対応と非難対応」
- 8/26(月) NHK奈良放送局「台風への備え」
- 9/4(水) 奈良新聞社「取材」
- 11/16(土) NHK関西発ラジオ深夜便
- 12/1(日) 都祁地域合同防災訓練

その他大和川流域と吉野川流域で多数実施

実施主体 担当部署	特定非営利活動法人 奈良県防災士会	R6年度 進捗状況:—
取組概要 防災講演・訓練、及びメディア出演による 広報活動		
取組内容の工夫点・課題・留意点		
取組による効果 災害意識の啓発		
活用可能な制度等 —		